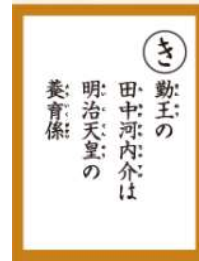


# 振興部の 知っとこ！神美

知っておいてほしい神美を紹介します。

## 【香住編】



### 香住の地名

「香住」は「霞」である。天日槍あめのひぼこについての「古事記」の記述は、後半を秋山したびおとこ之下氷男と春山之霞かすみ男かすみおとこの兄弟が出石いづしま乙女を争う話に当てていて、弟の霞男が母の助けをかりて恋の勝利者となる。出石いづしまは出島という地名から出て、出島は伊豆いづと島しまの二地名に分かれたとする。霞は香住で、下氷現在、比定できる地名は見当たらない。恐らくは古代のいつのころか、香住と下氷の両集落間に何らかの争論が生じ、香住側の勝利に帰した事実が、恋争いのエピソードに化けて伝説の中に取り入れられたものであろう。この説話の筋は、スキタイ神話を経由したギリシャ神話(オリンピア神話)がルーツである。

香住字家ノ奥おびとに鎮座する香住神社は、香住 首おびとの祖・香住彦命をまつると伝えている。香住彦は霞男である。

「但馬国太田文」は、鎌倉時代の但馬の資料として貴重な存在で、大内庄の下司は香住孫太郎入道浄阿としていて、香住の地名を負う有力者が鎌倉御家人として成長している。一説に香住里(香美町)から来住の桑原臣大市磨から香住の地名が生まれたともするが採り上げない。

(豊岡の地名 山口久喜著より)

### 田中河内介夫妻の刻文

香住の共同墓地で発見した墓碑

註 あく業し問へど答はず身はここに



(碑の左側面に夫人の刻文)

不肖男従六位河内介藤原朝臣

謹書

上池堂泰翁教信居士

病没千寝享年六十有六

生慈弘化四丁未之年夏五月九日

長女民伊 並先没天明二壬寅之年

井東氏 次卓先没 次讓嗣田路氏

嗣家次 嗣田中氏次謙嗣

娶三谷氏 生五男二女長子信古

芝村之人 林清七之子 而嗣小森氏

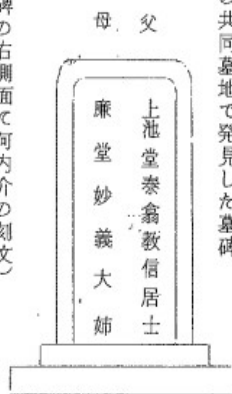
父露齊母長谷川氏実同州気多郡

州出石郡香住村之人也

上池堂俗称正造後改称静斎但

家君姓小森氏名教信字士信号

(碑の右側面に河内介の刻文)



香住の共同墓地で発見した墓碑

105 田中河内介夫妻の刻文

この刻文は父君の病中夫妻がしばしば京都より帰省し考道をつくしたと伝えられるが、逝去後、夫妻がこの刻文をなしたものと思われる。

香住 岡田啓二郎記

「豊岡民話 耳ぶくろ(昭和 50 年発行)」より